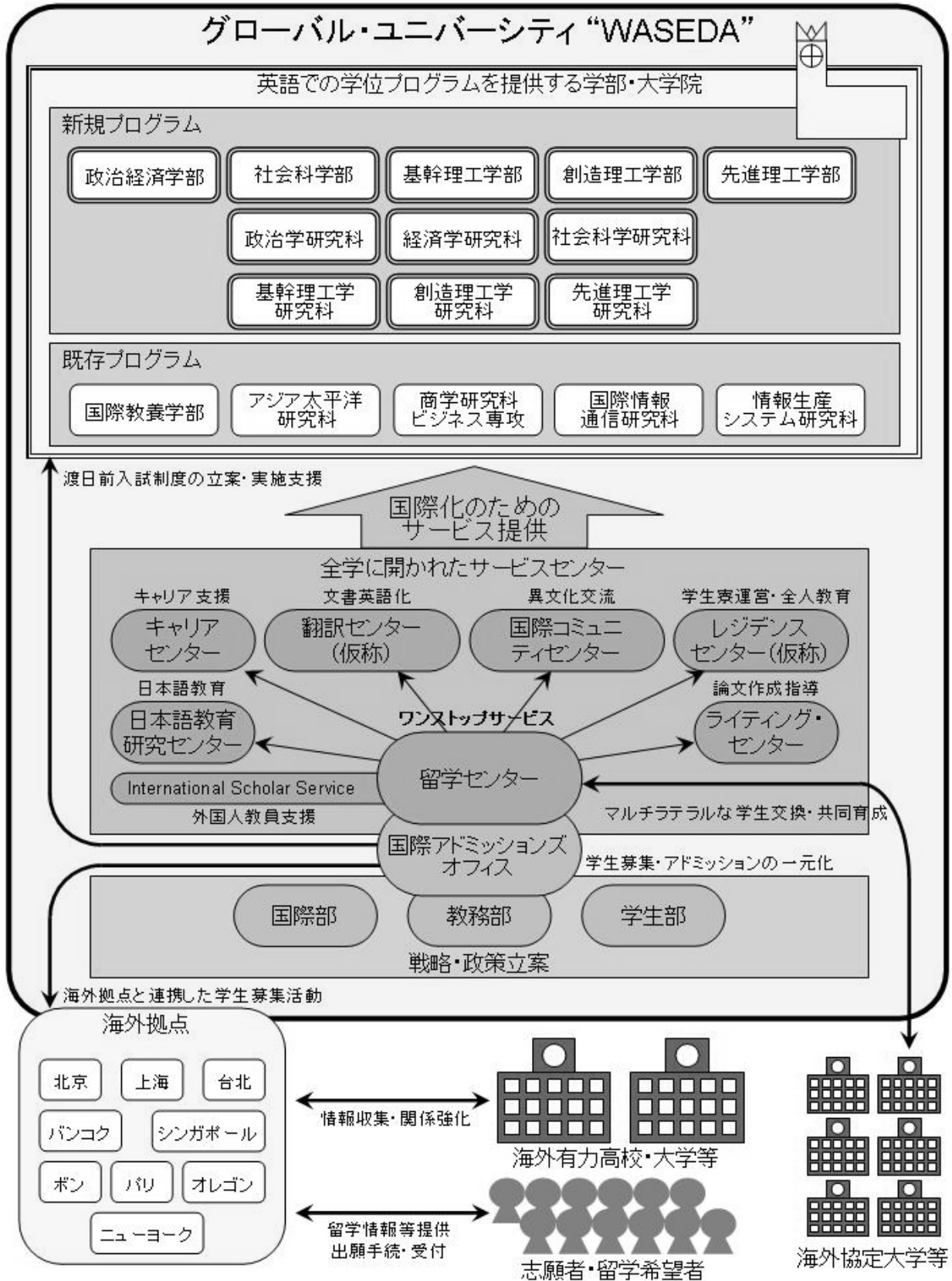


拠点大学の概要及び採択理由

機 関 名	早 稲 田 大 学
	<p>[国際化拠点の構想の概要]</p> <p>早稲田大学の国際化への取り組みは、創立以来「東西文明の調和」を目指した「地球市民の育成」を担うという建学の精神の下、清国留学生受入れを皮切りに百数十年にわたって、拡充的に継続されている。本学では2007年に125周年を迎えたことを機に、今後10年間の中期計画として「Waseda Next 125」を策定した。この計画ではグローバル化を最優先課題として位置づけ、「早稲田」から「WASEDA」へをスローガンとして、地球の至るところで異文化社会に溶け込み、地域に存在する様々な問題を解決するために行動し、その社会や日本、ひいては人類社会全体に貢献できる人材の育成を目指している。</p> <p>これを成し遂げるべく、本学は「知の共創」の中核として、日本人学生・留学生が混在・融和する世界的なハブ機能を担い、また世界中が学びの場となるグローバルキャンパスを形成しつつある。具体的には、留学生受入れ8,000名(学部4,000名、大学院4,000名)の実現を掲げ(現在約3,000名)、また日本人学生も在学中に一度は留学する教育カリキュラムの実現(現在約1,500名)を到達目標の一つとしている。</p> <p>国際化拠点整備事業に応募する「英語による授業のみで学位を取得できるコース」はその実現策の一環である。本学では1998年4月大学院アジア太平洋研究科が英語による学位プログラムを開始させ、現在では1学部4研究科で実施している。その経験とノウハウ、人的資源等を十分に活かして、新たに政治経済学術院(政治経済学部、政治学研究科、経済学研究科)、社会科学総合学術院(社会科学部、社会科学研究科)、理工学術院(基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部、基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科)の5学部・6研究科において、英語による学位プログラムのコースを2010年9月入学から2012年9月入学までの時期に開始する。</p> <p>各コースには本学でしか得られない世界レベルで質の高い、留学生にとって魅力的な英語によるカリキュラムを用意する。単なる日本語による授業の英語版ではなく、新たな挑戦的カリキュラムを構築することで、世界レベルの教育の質を確保する。内容的には、まず政治経済学術院の学部・大学院では日本やアジアにおける政治と経済の相互作用を踏まえて、新たな国際・国民・地域社会秩序の制度設計の方法を実践できる能力を確固とした政治経済学のカリキュラムで身につける。社会科学総合学術院の学部・大学院では、現代の日本を人文科学・社会科学・自然科学など様々な領域からの総合的研究の成果である現代日本学を中心に、環境・福祉・平和などイシューオリエンテッドなカリキュラムを提供する。また理工学術院の各学部・各大学院では、情報技術、環境技術、生命工学など日本が世界的に優位であり本学が得意とする分野を中心に、留学生がその分野の技術専門家として世界で活躍できる能力を養うカリキュラムを提供する。特に学部教育においては総合大学のメリットを活かし文系・理系の相互乗り入れ教育を展開して、より幅広い視野を育成するとともに、エクスターンシップによって地域・企業等、直接日本を体験学習できるチャンスを用意する。また大学院教育においてはグローバルCOE等の研究成果や教育経験を還元活用するとともに、海外連携大学において短期研究留学の機会も設ける。日本社会のより深い理解や日本における就職のために、日本語教育も重視し、日本語教育と各専門領域とを連携して質的充実を図る。また成績評価については2010年度から全学統一のGPA制度を導入する。</p> <p>コース運営にあたっては留学生だけが特別クラスで授業を受けるような「出島」状態ではなく、日本人学生も積極的に受講させることで、混在による相互理解と切磋琢磨、国内学生の国際感覚養成を図る。またこれまで主力であった東アジアからの留学生(中国37%、韓国25%、台湾7%)に加えて、今後学部は東南アジア、大学院は欧州地域を重点化し、より多様な背景を持つ学生による多文化融合的「るつぼ」を形成する。</p> <p>より質の高い授業を可能にするため、Waseda Next 125では外国人教員比率20%達成を掲げており、本構想では教員採用は国際公募で行い、日本人を採用する際にも英語による授業が可能であることを原則とする。またFDでは米国における英語による授業のための研修をさらに拡充し、現有教員の一層の戦力化を図る。6、7月を中心に海外著名教員を集中講義に招聘し、より質の高い授業を留学生・日本人学生に提供する。一方、英語教材の開発にあたっては海外連携大学との共同開発を進める。また、教育プログラムの効果を検討するため、学生による授業評価以外にも、分野ごとの学科目委員会を設置して定期的な内容検討と相互確認を行い、問題点や課題を改善することで、より質の高い教育を実現する。</p> <p>留学生のワンストップサービスとして、入学前対応は国際アドミッションズオフィス(2009年6月開設予定)が、また、入学後対応は留学センターが一貫した支援を行なえるよう機能強化する。本学職員が常駐する海外9拠点では海外高校・大学との連携をさらに強化して、優秀な留学生を発掘するとともに、推薦を含む渡日前入試を原則とする入試制度を整備し、また入学前確定の奨学金を充実する。さらに勉学支援としてチューター制度の拡充の他、ライティング・センターを質・量ともに充実させるとともに、就職支援では日本での就職が可能なように情報提供からマッチングまできめ細かい対応を行なう体制を整える。大量の学内文書を迅速かつ均質に英訳するために翻訳センター(仮称)を設置する。こうした支援業務を支えるために、職員採用にあたっては英語能力を重要な要件とし、また海外派遣研修などの実施によって高度な専門能力と国際感覚を兼ね備えた職員を育成する。</p> <p>本構想は総長のリーダーシップの下に、全学が連携するサポート体制を構築するが、同時に各学部・各大学院研究科が自主的に実施可能となる態勢を整える。改革推進体制は自己点検・評価システムと第三者評価委員会の評価結果に基づき、英語学位コース連絡協議会にて検討・提案する仕組みを構築する。</p>

【早稲田大学】

国際化拠点の概念図(海外における留学を促進するための取組、国内における留学生の受入のための取組について、構想の達成目標と取組計画をわかりやすく図示してください。)



大 学 名	早稲田大学
-------	-------

〔採択理由〕

早稲田大学の国際化に関する実績やこれまでの留学生の受入体制が非常に優れており、今後の留学生の受入の更なる充実が大いに期待できる。また、国際化拠点の整備のための構想は、学長のリーダーシップの下での全学的な取組となっており、英語による授業のみで学位が取得できるコースは、国際教養学部におけるこれまでの実績を踏まえた幅広い分野にわたる魅力ある内容であるとともに、AO入試の実施など具体的な留学生の選抜方法が示され、教員の能力向上にも十分な配慮がなされていることから、その実現性も高く、我が国を代表する国際化拠点としての成果と今後の展開が十分に期待できる。

＜特に優れた点、期待できる点、留意すべき点＞

- ・ 留学生のための宿舎、奨学金、その他支援体制が十分に整備されている。特に、英語能力に優れた事務職員の採用や、SD(Staff development)プログラムの作成などの取組は、国際化拠点の事務組織の強化を図る非常に優れた取組と評価できる。
- ・ 達成目標の実現のためには多様な国からの留学生の受入が必要となることから、留学生に対する教育の質の確保に配慮した取組の充実が望まれる。